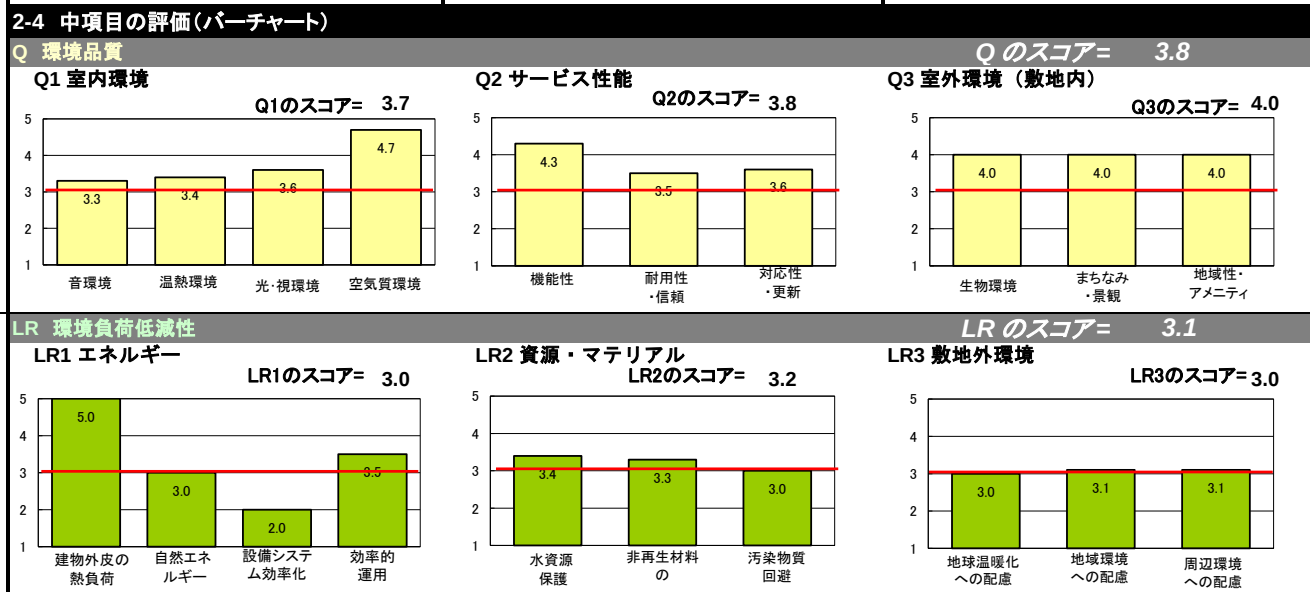
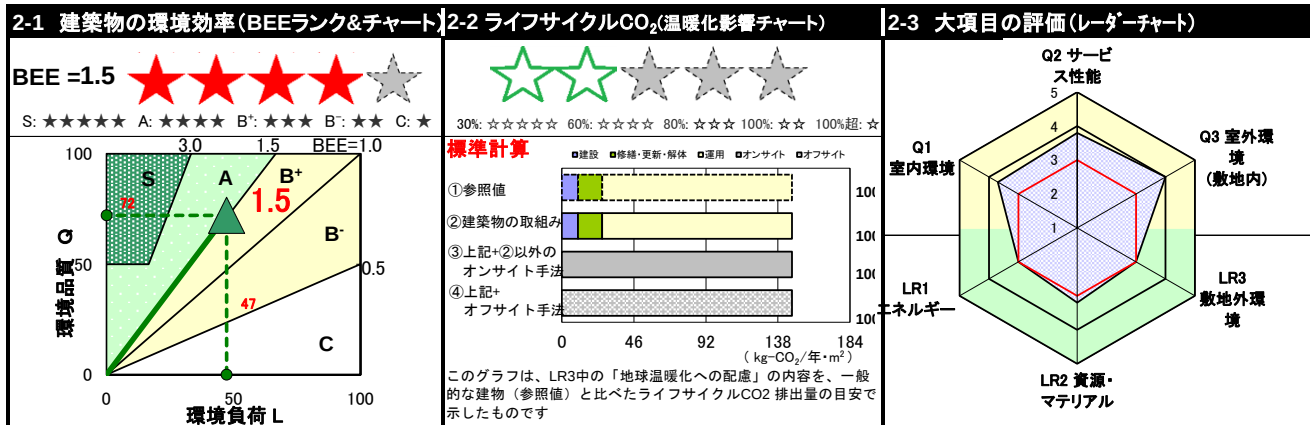


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛知学院大学末盛キャンパス(2期工事)	階数	地上5F
建設地	名古屋市千種区	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年9月 予定	評価の実施日	2024年2月1日
敷地面積	2,655 m ²	作成者	
建築面積	1,009 m ²	確認日	2024年2月2日
延床面積	4,681 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 名古屋千種区に計画された病院施設である。周辺が住宅街であることを踏まえ、建物を段状にセットバックさせ圧迫感を軽減すると共に、敷地東面は積極的な緑地を行うことで周辺景観に配慮している。		
その他 各階とも北側に居室を配し安定した採光の確保による明るい居住空間となるよう配慮した。		
Q1 室内環境 各階北側に連窓を設け安定した採光が期待できる居住空間とすると共に、化学汚染物質のなるべく少ない建材を採用している。	Q2 サービス性能 OAフロアを積極的に採用し、将来の更新性に配慮した計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内を積極的に緑化し、周辺にも寄与する良好な環境を形作っている。
LR1 エネルギー 断熱性能に配慮し、熱負荷を極力抑えた外皮計画としている。	LR2 資源・マテリアル ユニット部材の積極利用などにより資源の有効利用に努めている。	LR3 敷地外環境 駐車台数を極力確保し、周辺道路に渋滞や路上駐車などを発生させないよう配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

愛知学院大学末盛キャンパス(2期工事)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.0
LR1	エネルギー	3.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.016666667	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.0



2. 自然共生

評価点 = 3.8



3. 循環型社会

評価点 = 3.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。